

WHO-FIC ネットワーク年次会議（2016）及び ICD-11 改訂会議の報告

〔WHO-FIC ネットワーク年次会議〕

主催 WHO、日本 WHO 国際統計分類協力センター
 開催期間 平成 28（2016）年 10 月 8 日（土）～12 日（水）

〔ICD-11 改訂会議〕

主催 WHO
 開催期間 平成 28（2016）年 10 月 12 日（水）～14 日（金）

会場 東京（日本）：東京慈恵会医科大学、東京国際フォーラム
 参加者 各 WHO 国際統計分類協力センター、WHO 加盟国保健・統計部局等、WHO 本部、WHO 各地域事務局他、約 50 カ国約 300 名

【主な議論】

1. 全体として

- ICD 改訂会議の開会式*では、厚生労働省の古屋範子副大臣他から挨拶があり、本年開催された G7 のコミュニケ（資料 1 別紙 1）に触れながら、人々の健康の礎としての ICD の意義が紹介され、WHO のマーガレットチャン事務局長からは ICD-11 の幅広い活用への期待が述べられた。

※診療情報管理協会国際連盟（IFHIMA）、日本診療情報管理学会と共同開催

- ICD-11 改訂会議においては、WHO、各国政府、研究所、専門家等により、ICD-11 の活用や医療情報を取りまく環境、母子保健や精神保健、伝統医学等における動向など、様々なセッションにおいて議論が行われた。（参考資料 1）

また、加盟国への意見照会に使用する ICD-11-MMS（International Classification of Disease for Mortality and Morbidity Statistics、死亡・疾病統計用分類）を紹介した小冊子が配布された。（参考資料 2、インターネットからもダウンロード可能）

- WHO-FIC ネットワーク及び ICD-11 改訂のための運営組織が改正されることが報告された（資料 3 参照）。
- WHO-FIC ネットワークの各委員会議長の改選が実施され、以下のとおり日本からは再任 1 名、新任 2 名の議長が選出された。

分類改正改訂委員会 URC : Update and Revision Committee	新 新	<u>Jenny Hargreaves</u> （豪） Lucilla Fattura（イタリア）
教育普及委員会 EIC : Education and Implementation Committee	再 再	<u>Huib ten Napel</u> （オランダ） 横堀由喜子（日本：日本病院会）
国際分類ファミリー拡張委員会 FDC : Family Development Committee	再 新	Lyn Hanmer（南ア） Andrea Martinuzzi（イタリア）
情報科学用語委員会 ITC : Informatics and Terminology Committee	新 新	Cassandra Linton（カナダ） <u>中谷純</u> （日本：東北大学）

死因分類グループ MRG : Mortality Reference Group	再 新	Francesco Grippo (イタリア) 中山佳保里 (日本: 厚生労働省)
疾病分類グループ MbRG : Morbidity Reference Group	新 新	Olafr Steinum (スウェーデン) Bill Ghali (カナダ)
生活機能分類グループ FDRG : Functioning and Disability Reference Group	新 新	Haejung Lee (韓国) Matilde Leonardi (イタリア)

※上記表のうち、下線の者及び Lynn Bracewell (英国), Patricia Wood (カナダ) が、会議後、WHO-FIC ネットワークカOUNシル SEG メンバーに選出された。

2. 各委員会等における議論

- 分類改正改訂委員会 (URC) : 主な活動としては、ICD-10 と ICF の中心分類 (reference classification) の構築、ICD-11 改訂において ICD-10 からの移行に関する検討が行われている。ICD の勧告は全体で 104 件あり、うち 69 件が承認された(資料2参照)。ICF の勧告は 20 件で、うち 7 件が承認された。今後の作業としては、WHO のウェブサイトに掲載される予定の活動報告を作成しており、最初のドラフトは 2016 年 12 月に完成する予定である。また、ICF に関しては ICF 構築過程の改善を計画している。
- 教育普及委員会 (EIC) では、中間年次会議が 2016 年 6 月にタイ・バンコクで実施されたことが報告された。主な活動として、WHO-FIC 実施状況データベース (Implementation database) の構築が進められているほか、ICD-11 のレファレンス・ガイドのレビューを実施した。また、WHO-FIC のアドバイザーと educator のデータベース構築も実施している。これらのデータベース構築で集められた各種情報は地域 (region) レベルで集約されるほか、WHO が構築している GHO (Global Health Observatory) への活用も期待されている。ICD-11 に関しては、フィールドトライアルの実施が計画されている。ICF に関しては、e ラーニング・ツールの開発を実施している。次回の中間年次会議は、2017 年 6 月に南アフリカかイタリアで実施予定である。
- 国際分類ファミリー拡張委員会 (FDC) では、中間年次会議が 2016 年 5 月にイタリアで実施されたことが報告された。また、“family paper”を執筆しており、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ (UHC: Universal Health Coverage) を含む持続可能な開発目標 (SDGs: Sustainable Developmental Goals) への対応も検討している。今後の実施計画としては、ICHI 構築のためのサポートや UHC 実現のためのサポートを実施する予定である。また、ICHI 開発を担当する組織として、新たに ICHI タスクフォースが設置された。Richard Madden 氏 (豪)、Lyn Hanmer 氏 (南ア) が共同議長に就任し、2019 年の世界保健総会 (WHA) での承認を目指すこととされたが、高い目標に対しては、現実的な調整も必要との意見もあった。
- 情報科学用語委員会 (ITC) では、ICD coding tool の開発を進めており、自然言語での検索を検討している。また、ClML (classification markup language) についても、より ICD-11 にも適用しやすいものとなるよう改訂プロジェクトが進められている。ICF オントロジー (Ontology) については、FDRG と FDC との間で協議を行なっているほか、ICD の最初のフィールドトライアルを 2016 年 1 月に行い、その評価を実施した。今後フィールドトライアルは幅広い分野について、多くの協力センターの協力のもとで実施される予

定である。ICHIについては、プラットフォームの改訂を実施した。中間年次会議は実施予定がなく、年に1回あるいは2回の電話会議が計画されている。

- 死因分類グループ（MRG）では、33件の改正提案をURCに提出した。今後の作業としては、ICD-10の課題に引き続き取り組みつつ、死亡の観点からのICD-11のレビューにも取り組むこととされた。中間年次会議は米国NCで2017年3月に実施される予定である。
- 生活機能分類グループ（FDRG）では、ICF2016の完成に向けて作業を実施しているほか、ICF user surveyを実施している。また、ICHI構築において生活機能(Function)面からのアドバイスを実施している。今後新たに取り組むべき課題としては、ICF2016の完成、ICFのオントロジー(Ontology)の実現に向けた作業、ICF practical manualの作成とテストなどがある。今後引き続き実施する項目としては、ICF及びWHO-DASのアップデートと改訂、ICFオントロジーの開発、ICF教育の実施などである。中間年次会議は、2017年6月に南アフリカ・ケープタウンで実施予定である。
- ジョイント・タスクフォース(JTF)では、ICD-11における死亡・疾病統計用分類について、2015年から対面会議及びウェブ会議を複数回実施し、国際報告においてポスト・コーディネーションを使用する方法やICD-11における用語の明確化(例えば「定義」は定義ではなく解説・説明と呼称する)等について議論されたことが報告され、WHOからは、JTFからだされた39の勧告への対応に加え、プロポーザル・プラットフォーム上に提出される数千もの修正提案を処理していること、マッピングの作業も進めていることが報告され、今後の作業スケジュールが示された。
- アジア・パシフィック・ネットワーク(APN)では、第8回APN年次会議(2016年6月、於バンコク)で、WHOから提案のあったWHOのスタートアップ・モータリティー・リスト(ICD-10-SMoL)とAPN簡易版の連結について、7月にWHO本部において作業会議が行われ、本会議でその検討結果であるα版第1版が紹介されたほか、カンボジアで行われたICD-10簡易版フィールドトライアルの結果及び他地域での実施について議論された。2017年6月にベトナムで開始を予定していた年次会議については、担当者の異動によりベトナムでの開催は難しい状況であることが報告され、新たな候補地についてAPN事務局で検討することとなった。

3. その他

- WHOにより採択されたポスター約100題が会場に掲載された。
- ポスターセッションにおいて、日本から以下の2題を口頭発表した。
 - 「Internal Medicine TAG Coding Exercise of ICD-11」小川俊夫(国際医療福祉大学)
 - 「Use case for Traditional Medicine in Japan -Morbidity data classified by joint use of ICD-」(井筒将斗(厚生労働省)他、発表:駒澤大佐(厚生労働省))

4. 今後の会議日程

- WHO-FIC ネットワーク年次会議について、2017 年はメキシコ、2018 年は韓国で開催予定。

G7 Kobe Communiqué (抜粋)

September 11 -12, 2016

Valid and reliable data are essential for high-quality health care systems and monitoring the SDGs, including UHC. Supporting basic data collection such as civil registration and vital statistics (CRVS), as well as health and health care data, would help countries be better prepared for population ageing. In view of facilitating effective and efficient response to global population ageing, we acknowledge the value of using international statistical classifications including the International Statistical Classification of Diseases and Related Health Problems (ICD) and the International Classification of Functioning, Disability and Health (ICF) as well as a global survey on key indicators of health and needs of the elderly integrated into existing survey and routine reporting mechanisms as much as possible.

G7 神戸コミュニケ（仮訳・抜粋）

2016年9月11-12日

妥当性及び信頼性があるデータは、良質の保健医療システムにとって、また、UHCを含むSDGsの進捗をモニタするために、必要不可欠なものである。住民登録・人口動態統計（CRVS）並びに健康状態及び医療のデータといった基礎データの収集を支援することは、各国が高齢化により良く備えることに資する。世界的な高齢化への効果的かつ効率的な対応を容易にする観点から、我々は、疾病及び関連保健問題の国際統計分類（ICD）や国際生活機能分類（ICF）といった国際統計分類を活用すること、並びに、既存の調査や定期的な報告のメカニズムに可能な限り統合される形で実施される高齢者の健康やニーズを捉える主要指標に関する国際調査が有用であることについて認識する。

※下線は、ICD専門委員会事務局